

いちごの定植後管理と次期作の親株管理について

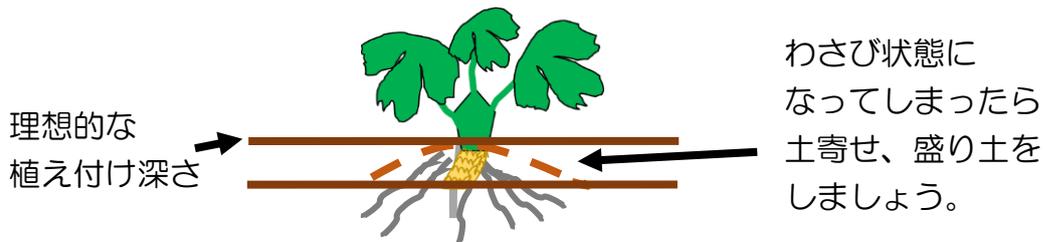
令和3年8月4日
加須農林振興センター

1 定植後の管理

(1) 活着促進のための管理

ア 植え付け深さ

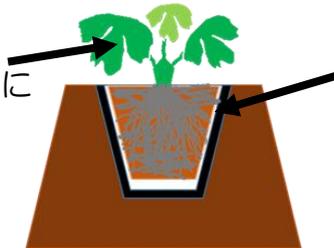
浅植えにならないように注意！鉢土上面と本ぼの土の高さが同じになるように植え付けましょう。根は空中に出ません。わさび状態を防止しましょう。



イ 株元に手かん水

鉢土と床土の隙間を埋め、根鉢を土になじませる効果があります。新しい根を発生させ、早く活着させるために一番効果的です。また、根を深く張らせることもできます。手間はかかりますが、**定植後1週間程度は株元手かん水**を行いましょう。

株元を狙って水を染込ませるようにじっくりかん水しましょう。



隙間があると根が広がりにくい

ウ 活着のサイン

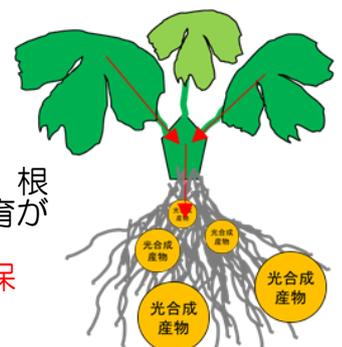
- (ア) 育苗時の葉と明らかに違う葉が出てくる。
- (イ) 1枚あたりの葉が大きくなる。葉面積拡大。
- (ウ) **いつ液現象**が増える。(葉水があがる状態)



(2) 活着後の株養成のための管理

ア 根の充実

初期に根量を確保することは、今後の生育と収量の安定のために大変重要です。根は光合成産物の貯蔵器官として機能します。花、果実をもつようになると蓄積されていた光合成産物が転流し、根が減少してきます(12月~翌1月)。根が少ないと地上部の生育が遅れ、最悪の場合生育が停滞し株が寝てしまいます。株元かん水、かん水チューブを駆使し、減少分を補えるだけの**十分な根量を確保**しましょう。

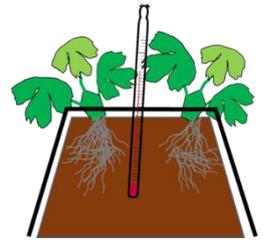


イ ハウス内の温度管理

いちごの**生育適温は20~25℃**、**花芽分化の適温は15℃**です。30℃を超えると極端に生育が衰えるため、特に定植直後と3月以降の暖候期は、遮光遮熱資材を有効に活用してハウス内を適温に近づけましょう。遮光カーテンは遮光率50%程度のものを使用し、正午から15時くらいまでの遮光が効果的です。朝夕の光はハウス内に取り入れるようにしましょう。

ウ マルチのタイミング

地温が **20°Cを下回ったタイミング** でマルチを敷設するのが一つの目安です。マルチをすると、ベットの表面の水分が保たれるようになるため、表層にも根が増えてきます。



2 次年作の親株管理

(1) 鉢上げ

ウイルスフリー苗を受け取ったら、**鉢上げをして少し生育**させましょう。クラウン径を10 mmくらいにしておくのと冬越しが楽になります。鉢のサイズは最低でも10.5cm（3寸半）または12cm（4寸）の物を使用するようにしましょう。

(2) 休眠に入るまで

休眠に入るまでの期間は**肥料を切らさない**ように注意が必要です。鉢上げ後、新しい根が出てきたところに置き肥をしましょう。良いランナーが出ている場合はポットで受け、親株の数を増やしておくのも手です。

(3) 休眠中

休眠後は**寒さにしっかりと当てる**ことが重要です。一定期間の低温に遭遇させることで、良いランナーをたくさん出す親株に育てることが出来ます。休眠に入ったら屋外に置き、低温に遭遇させましょう。

(4) 休眠から覚める前

気温が暖かくなってくると、休眠から目覚め生育が始まります。**根が動き出す前に親株床に植えましょう**。地上部が動き出した後だと少し遅い場合があります。早めに親株床に植えて大きな親株に育てましょう。植え付けの際は、植え付け深さに注意し、いわゆるわさび状態の防止に努めましょう。